

府中市政に！

ゆうきりょう

無所属議員として再出発から1年。 今、新たな決意！

昨年6月末に政党(共産党)を離れ、無所属となり1年が経ちました。政党の後ろ盾がなくなり、ひとりの議員として市民のみなさんから信頼を得ることの大切さを、自覚しています。

市民にとって市議会議員の存在は近いはずなのに、いつのまにか遠い存在になっているのに気がつきました。議員になると周辺から「先生」とおだてられ、自分が別世界の位置にいると錯覚します。しかしながら議員とは、任期4年間の「雇われ」の存在であり、「雇っている」のは市民のみなさんであり、議員は市民の代理人にすぎません。

市民の立場から「是々非々」の立場で

私は無所属になったことで高野市政に対し「反対ありき」でもなく、同時に「賛成ありき」でもなく、市民の立場から「是々非々」の立場で臨んでいきます。ゆうきりょうの「市政通信」は、市政に関心をもっていただくため、毎月発行しています。これからも市民の方々のお声をいただき、議会に市民の風を市政に吹かせ、市民と府中市の架け橋になる決意です。



01 なぜ市民の声が行政に通じないのか… 役所の都合でなく、市民ニーズにこたえる、人に優しい行政サービスを！

府中市政は今、大きな曲がり角にあります。昨年6月に発覚した公共工事をめぐる官製談合事件では職員幹部、議員2名が逮捕される事態となり、行政と議会に対する市民の信頼が失われています。また2017年には40年来の計画だっ

た府中駅再開発事業が終了しましたが、府中駅周辺の賑わいと活性化には至っていません。私は原因の1つに、今の市政が市民ニーズよりも、役所の都合で行政運営をしていることにあると考えています。

そこで今号では、市民ニーズからみて①福祉行政のあり方、②多額の市税を投入した駅の開発(府中駅、多磨駅)という視点で、市民からの声を紹介します。ぜひみなさんにも、市政のあり方について考える機会にと願っています。



02 人間の尊厳守る福祉の心を 府中市政に求めたい (市民の声より)

身体機能は悪くなっているのに、
説明なく介護認定を下げるのは理不尽

今回、介護している妻の介護認定度を下げられました。これにより府中市独自のサービスである、おしめの補助がなくなりました。私の妻は脳幹手術の後遺症のため、排尿神経麻痺があり、尿漏れが平素からです。そうした考慮もない介護認定のあり方に疑問です。だいたい妻の身体症状が悪くなっているのに、なぜ介護度が下がるのか説明はありません。介護認定が下がっても、その人への補助サービスは必要です。「介護度3」で27万円が「介護度2」だと19万円に下がります。おしめの補助は月8千円ですが、介護度が下がった方には絶対必要な補助サービスです。福祉サービスは、その人の実態にあった施策にするべきです。

介護の現場を知っている
ケアマネージャーの意見をなぜ聞かないのか

介護認定の判定で一番問題なことは、実態を知っているケアマネージャーの意見が反映されていないことです。今後団塊の世代が後期高齢者になり、介護保険制度の維持が困難になるという事情はわかりますが、やみくもに本人に必要なサービスまで切り捨てるのでは、何のために国民は保険料を払っているのか。介護認定は金額ではなく人間の尊厳にかかわる問題であり、杖を突いて歩ける人も介護度3で、なぜ歩行困難で車いすが介護度2なのか。何を基準にして決めているのか、行政のブラックボックスです(市民の投稿より)

03 人に「やさしくない」街づくりでは、 市政への共感は得られない… 高齢者、障害者に利用しづらい府中駅 (市民の声より)

「健康者目線」でしか考えていない府中駅ロータリーのつくり

府中駅ロータリーの横断について、「くるる」の側から「ル・シーニュ」側への横断が駅のペストリアンデッキまで階段をあがらなくてはなりません。または旧伊勢丹(現ミッテン)近くと甲州街道側にしか、横断歩道がありません。足の不自由な方、松葉杖、高齢者、車椅子の利用者の方に、この選択は非常に厳しいです。ターミナル内でも向こう岸に横断できるようにしてもらえないでしょうか。

私は10年前に松葉杖の生活をしていた経験があります。その時、ほんの少しの距離や段差、遠回りで経路が辛くて大変な思いをしました。以前、駅へ上がる入り口が片方を工事していますが、仮に復活したとしても上に上がって渡り、また降りるにも厳しいです。高齢者の方が、途中途中休憩をしながら、ようやく反対側へ渡っていました。



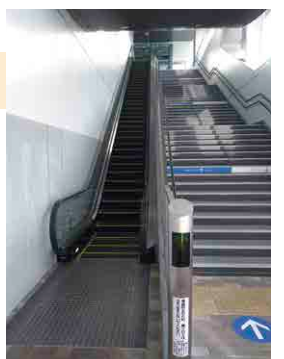
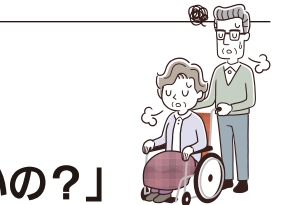
府中市は「健康者目線」でしか考えてない、やさしくない街づくりをしています。最近はターミナル内を横切る人が増えてきています。バスもクラクション鳴らしていますが、今の面倒な横断手段しかなければ仕方ないとも感じます。是非、横断できるようにしてもらいたいです。(市民の投稿より)

04 西武線多磨駅改良工事に 市民の税金14億円投入したものの… えっ!「なぜ下りのエスカレータがないの？」 多磨駅改良のあり方に疑問

階段は上がるより下るほうが楽なのか?

西武多摩川線多磨駅の供用開始について、駅構内に下り用エスカレータがないと知ってびっくりしました。「全面バリアフリー化」と聞いていましたが、どんな問題があったにせよ、下りのエスカレータを設置しないと決めた背景には、「階段を上るより下る方が楽」という思い込みがあるのでは…。

でもこの認識はバリアフリーの考えに反しているのではないのでしょうか。子供の手を引いて階段を下りるのは危険で怖いです。杖なしで歩けていても足腰が不安な高齢者も、階段を下りるのは怖いはず。私も高齢の母を連れて、階段を下りるときは神経を使いました。目が不自由な人、荷物をたくさん持っている人も、上りより危険で怖いのが下りです。「そういう方はエレベーターを使ってほしい」という考えも、バリアフリーの理念に反していると思います。(市民の投稿)



府中市議会議員

ゆうきりょう(結城亮) プロフィール

PROFILE

昭和45年(1970年)5月11日生まれ、横浜市青葉区出身、大東文化大学法学部卒、東京土建府中国立支部事務局などの仕事を経て、2015年4月から府中市議会議員、現在2期目。現在は文教委員会委員、市庁舎建設特別委員会副委員長。現在は無所属議員、会派「市民の風」所属。

※毎週火曜日22時45分から、ラジオフューズ(87.4MHz)でパーソナリティ番組「市議会議員 ゆうきりょう 市民の風」を放送中。